



上青柳地区にある田んぼと屋敷林に囲まれた茅葺き屋根の家 遠くに筑波山を望む(茨城県石岡市)
かみあおやき

筑波山と清流 田んぼと茅葺き屋根 — 日本の原風景 石岡の人々と暮らし

林家 たい平
はやしや へい
 落語家



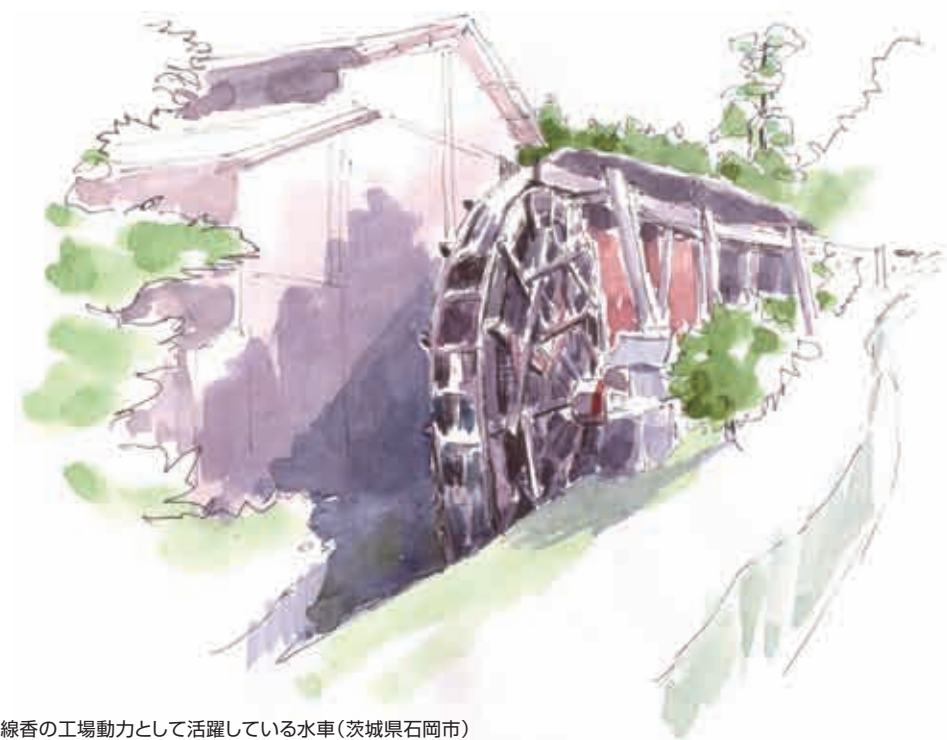
1964年埼玉県秩父市生まれ。武蔵野美術大学造形学部卒業後、1988年に林家こん平に入門。2000年に真打昇進。NHK新人演芸コンクール優秀賞、彩の国落語大賞、第58回芸術選奨文部科学大臣新人賞など受賞多数。古典落語を広めるために努力を続け、定期的に行う独演会を中心に全国でも数多くの落語会を行い、落語の楽しさを伝えている。現在、日本テレビ『笑点』、NHK教育『ど〜する?地球のあした』に出演中。オフィシャルサイト <http://www.hayashiya-taihei.com/>

人間と自然の共生について子供たちに伝え、考えてもらうというテーマの番組に、ナビゲーターとして出演させていただいています。先日ロケにでかけたのが茨城県の石岡市いしおかでした。予備知識がゼロだったせいか現地では感動の連続でした。遠くに紫峰しほほうといわれる筑波山、そこから流れ出す清流。広がる棚田には稲穂が頭を垂れ、周りを見渡すと筑波地域独特の茅葺き屋根の農家が点在していて、こんな美しい風景がまだあったのかと思いましたね。聞けば「にほんの里100選(主催朝日新聞社・財)森林文化協会」にも選ばれているそうです。

訪問したのは明治の昔からせせらぎの水車を利用して、杉の葉からお線香をつくっていらつしやるお宅でしたが、そのお仕事はそのまま自然との共生なのですね。また、自然農法をやりたいと東京から移住してきた若いご夫婦が、肥料としてどうしても落葉が必要になつて、クヌギ林をお持ちの地主さんにお話ししたところ、ただお借りできただけでなく、それこそ親身になつて助けてくださったそうで、もう地域全体が大きな家族のようだとおっしゃっていました。わが家の子供たちもこんなところで育てたいと思いましたね。石岡はその昔、常陸國ひたつぬの国府や国分寺、国分尼寺くににじがあり、いまも常陸総社ひたつぬ宮があるという由緒ある地です。住み継がれてきた人たちは、その風土や歴史、文化に大きな誇りを持っておられ、それが豊かな心を育み、身近な風景を磨き上げてくれたのではないのでしょうか。

朝のほつてくるお天道様を拝み、夕陽にも感謝の手を合わせる。自然は神様ですが、日常の暮らしを助け合うのはご近所です。私たちにとってなにより大切なのは人間を含めての環境。そんな基本を石岡で学ばせていただいたような気がします。

(談)



杉線香の工場動力として活躍している水車(茨城県石岡市)
 絵: 平野 敬則